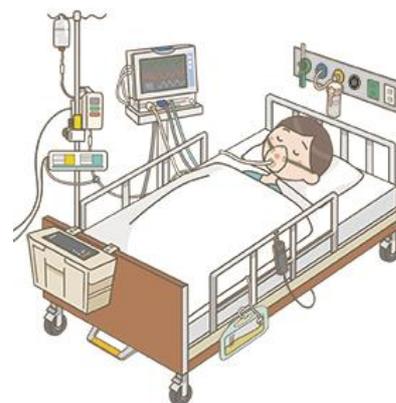


## テーマ：安眠を妨げない医療機器照明

### ■ 背景

患者が入院している一般病室内には様々な医療機器が設置されていることが多い。例えば、ベッドサイドモニターには患者の心電図、心拍数や酸素飽和度などが表示されるし、輸液ポンプには流量や予定投与量などが表示される。シリンジポンプでも同様である。

集中治療室では血液浄化器や人工呼吸器などより多くの医療機器が設置されている。これらの医療機器は終夜電源オンとなっていることが多く、その電源ライトが気になり安眠出来ないと訴える患者は少なくない。入眠できないためか消灯2～3時間後にナースコールされることが多い。



### ■ 現状の課題

遮光性のある布やテープなどで電源ライトを覆うことは不可能ではないが、その場合はその使用機器が正常に作動しているか、近づいて確認しなければならないため看護師の手間が増える。

電源ライトを機器の上部/下部へ移動すれば患者の目には触れにくくなるが、当該機器の開発に関わることであるため、対応は容易ではない。

また、安眠出来ないからと言って、むやみに睡眠導入剤を処方することは、副作用や依存性の面から好ましくない。



モニター画面や機器から出る音（心拍音など）にも同様の課題がある。

### ■ 機能アイデア例

- ・簡易に脱着可能なフィルムで気にならない色へ変える、照度を変える
- ・音量を調節できる機能
- ・部屋の照度に合わせて、あるいは人感センサーで調光する仕組み
- ・不快に感じない点滅間隔、あるいはゆっくり点滅する機能

### ■ 市場性

輸液ポンプ及びシリンジポンプの保有台数は病院の規模や形態によっても大きく異なるが、平均すると一医療機関当たり各々98台、67台保有と報告されており、不足分はリースで対応している施設もある。薬事工業生産動態統計（令和4年）によると、出荷台数は汎用輸液ポンプが約5.9万台、シリンジポンプが5万台、多項目モニターが約9.7万台となっている。

### ■ 看護部のホームページ

<http://sumsnurse.es.shiga-med.ac.jp/>